

まな
マンガで学ぶ

大倉邦彦

おお

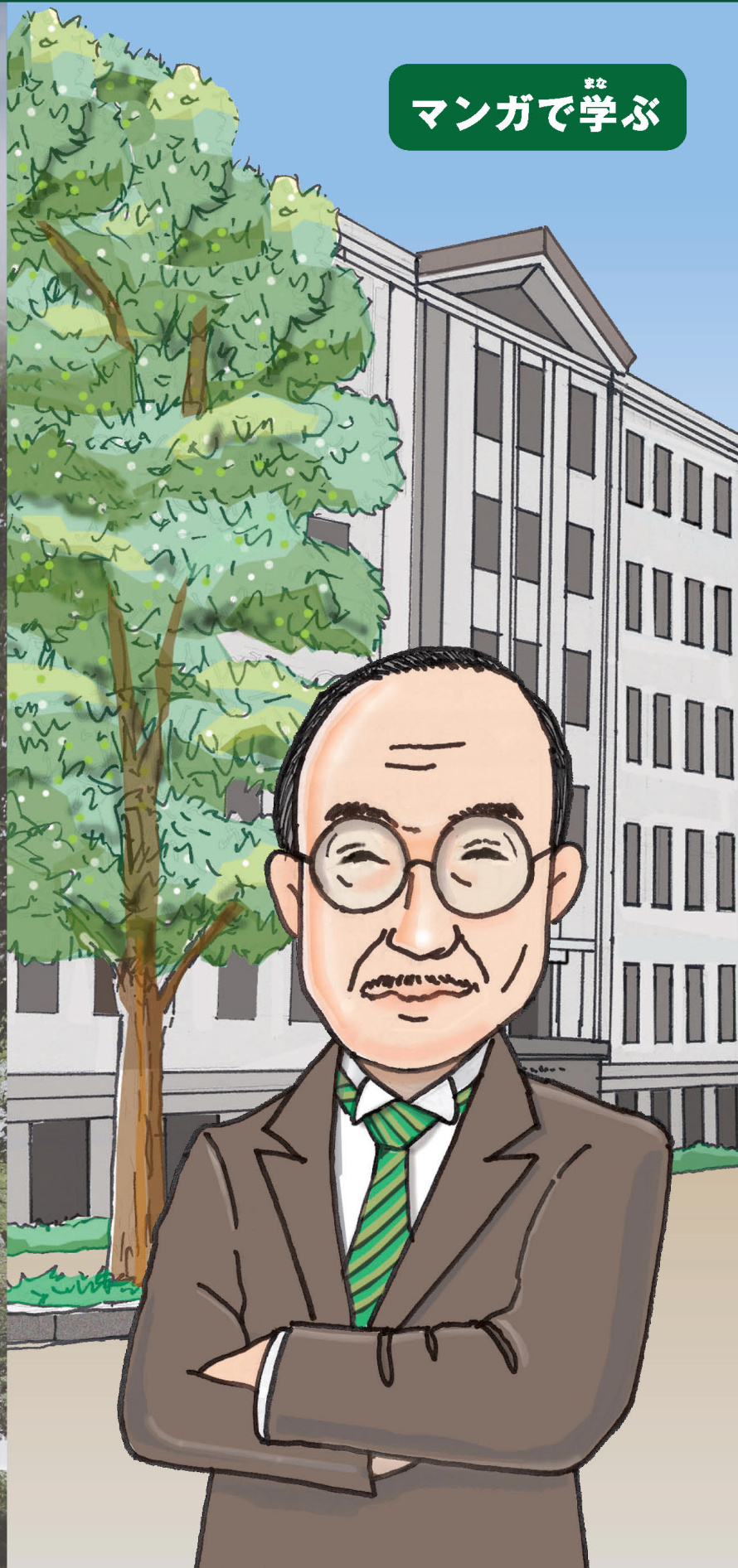
くら

くに

ひこ

もの がたり
物語

しゃかい
社会のために
じつせんきょうこう
尽くした実践躬行の
ひと
人



おお くら くに ひこ おも じ せき まな
大倉邦彦の想いと事蹟をマンガで学ぼう!

おお くら くに ひこ つた かれ のこ
大倉邦彦が伝えたかったこと。そして彼が遺したものは。



公益財団法人 大倉精神文化研究所

大倉邦彦関連マップ

大倉邦彦に関連のある、おもな場所を示した地図です。
大倉邦彦は日本のみならず、世界にも目をむけました。

佐賀

- ① 1882年、佐賀県神埼郡西郷村（現在の神崎市神埼町）で生まれる。→P13
- ② 佐賀中学校在学中に根津一の講演を聞き、東亜同文書院への入学を決める。→P15
- ⑩ 1928年（45歳）、農村工芸学院開校→P27

①: 出来事の順番
→P○: 関連のページ



東京

- ⑤ 1912年（30歳）、大倉文二の養子となる。→P18
- ⑥ 1918年（36歳）、大倉洋紙店社長就任。→P19
- ⑧ 1924年（42歳）、中目黒に富士見幼稚園を開園。→P24
- ⑫ 1937年（55歳）、東洋大学学長に就任。→P34

神奈川

- ⑪ 1932年（50歳）、大倉精神文化研究所を設立。→P30
- ⑬ 1958年（76歳）、タゴール記念会理事長就任。→P39
- ⑭ 1964年（82歳）、大倉山坐禅会開始。→P40

中国の天津

- ④ 1906年（24歳）、東亜同文書院卒業後、大倉洋紙商行の天津出張所に就職。→P17

アメリカ

- ⑦ 1920年（38歳）、アメリカ視察。→P21

ヨーロッパ

- ⑨ 1926年（43歳）、ヨーロッパ視察。→P26

中国の上海

- ③ 1903年（21歳）、東亜同文書院商務科に入学、中国の思想や文化を学び、国際的視野を広げる。→P16

関連施設



神埼情報館

佐賀県神埼市内の歴史などに関する情報を発信する施設

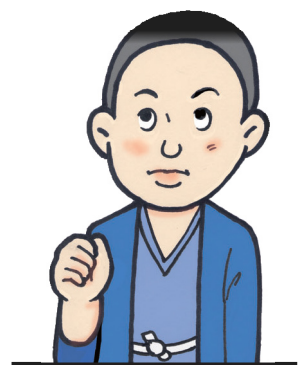


横浜市大倉山記念館

→P58・59

私とゆかりの深い場所を紹介するよ！





おおくらくにひこ
大倉邦彦

まな
マンガで学ぶ

大倉邦彦

おお

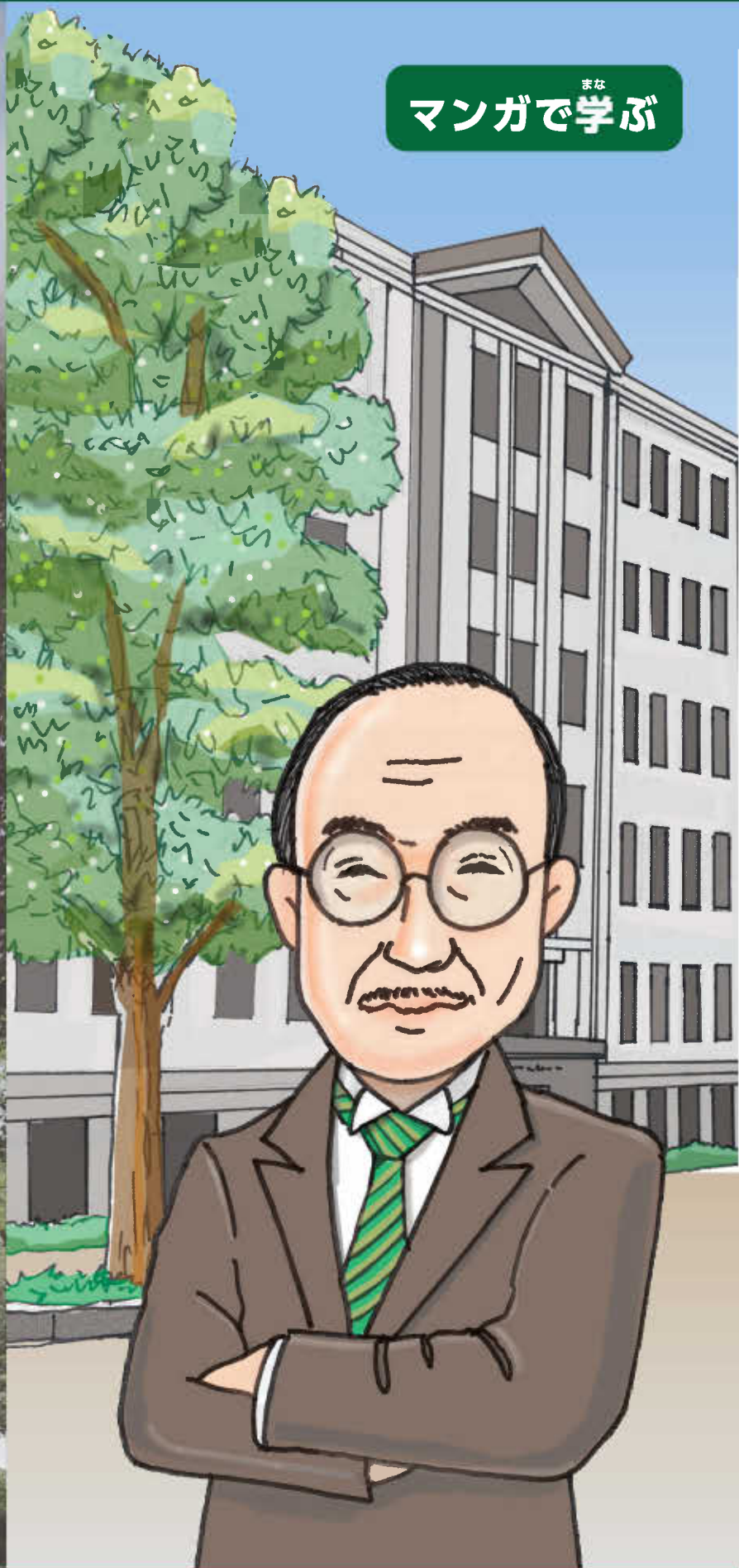
くら

くに

ひこ

ものがたり
物語

社会のために尽くした実践躬行の人



* 実践躬行…自分が考えたことや学んだことを、実際に自分でやってみること。

大倉邦彦は、社会の役に立つと思ったことは、すぐに行動にうつす「実践躬行」の人でした。

もくじ

大倉邦彦物語

おおくらくにくにひこもの がたり

大倉邦彦関連マップ 前見返し

ごあいさつ 2

もくじ 4

おもな登場人物と関係図 6

写真で見る！年代別 大倉邦彦 8

大倉邦彦の履歴書を見てみよう！ 9

プロローグ 12

第1章



広い世界に目を向ける

13

佐賀県神埼に生まれる

横武尋常小学校へ入学／勤興小学校へ進学

佐賀中学校へ入学／根津一との出会い

東亜同文書院商務科へ入学

第2章



社員教育から教育事業へ

17

大倉洋紙商行に就職／大倉文二の養子となる

大倉家の社会貢献活動／大倉洋紙店の社長就任

アメリカ視察／度重なる不幸と関東大震災

付録

もっと知りたい！大倉邦彦

43

大倉邦彦年表 44

大倉邦彦ゆかりの人々 46

大倉邦彦が行った教育事業と社会貢献 48

大倉邦彦の教えとは：?! 50

大倉邦彦が残した言葉 52

参考文献リスト 54

公益財団法人大倉精神文化研究所 56

横浜市大倉山記念館 58

編集後記 60

悩み、学び、悟る／富士見幼稚園開園

精神文化図書館建設を目指す

ヨーロッパ各国を視察

第3章

精神文化事業に邁進

27

郷里佐賀に農村工芸学院を開校

タゴールとの出会いと交流

大倉精神文化研究所設立／『神典』の刊行と修養会の開催

東洋大学の学長就任／大倉洋紙店の社長を辞任

戦争の激化と研究所／終戦を迎えた研究所



第4章

想いは時代を越えて

38

巢鴨からの便り／五輪堂の設立

下中弥三郎の所長就任

タゴール記念会の理事長就任

大倉山坐禅会の開始／生涯を閉じる

受け継がれる想い



エピソード

42

この本の決まりごと

●マンガ本編は各段の右から左へ読み進めます。

●難しい言葉は*をつけて下の枠外に説明が書いてあります。

●小学生でも読めるように、ほぼ全ての漢字にふりがなを振っています。

●年齢の表記は、全て誕生日(4月9日)を基準とする満年齢で書いてあります。

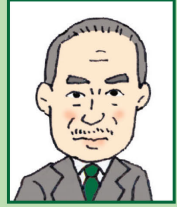
●地名は原則として、現在の住居表示によります。



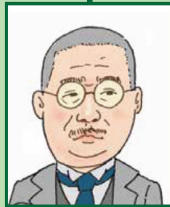
大倉精神文化研究所



坪上貞二
外交官。邦彦の佐賀中学校の後輩で、戦後、研究所理事長を務めた。



長野宇平治
建築家。大倉洋紙店本店のビルや研究所の本館を設計した。



五島慶太
東急の創業者。邦彦に研究所の敷地を販売した。

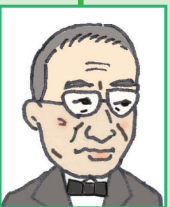
邦彦から影響を受けた人



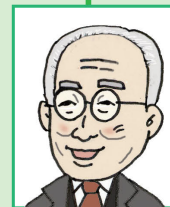
牟田直
邦彦と同じ村出身。邦彦に連れられて上京し、会社経営と精神文化活動を支えた。



原田三千夫
邦彦の秘書として訪欧。後に国会図書館支部図書館の館長となる。



森川寛三
日本能率協会会長。邦彦の思想に感銘し、一隅会を発足させた。



下中弥三郎
平凡社の創業者。戦後、研究所所長を務めた。

主人公
大倉邦彦



大倉邦彦物語

このマンガの登場人物が一目でわかるよ!

おもな登場人物と関係図



兄 あに



江原貞一
邦彦の兄で良き理解者。西郷村村長。農村工芸学院の共同設立者で院長。

母 はは



江原エツ
邦彦の母。

父 ちち



江原貞晴
邦彦の父。県議会議員や西郷村村長を務めた。

江原家
生家

娘婿 むすめむこ



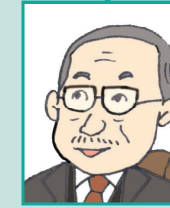
田川(大倉)武
邦彦の娘百代の夫。邦彦から会社経営を引き継いだ。

妻 つま



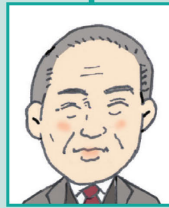
大倉富美
文二の一人娘で邦彦の最初の妻。

義父 ぎふ



大倉文二
邦彦の義父。大倉洋紙店の二代目社長で、邦彦の才能を評価し、婿養子とした。

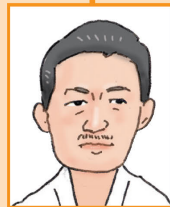
義祖父 ぎそふ



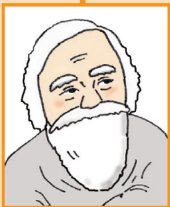
大倉孫兵衛
邦彦の義祖父。大倉洋紙店創業者。

大倉家
養家

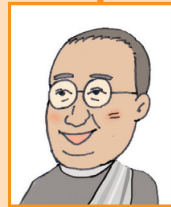
インド関係



高垣信造
柔道家。邦彦の紹介でインドへ渡り、柔道を教えた。



ラビンドラナート・タゴール
インドの詩人・思想家で、ノーベル文学賞受賞者。来日中に邦彦の自宅に一ヶ月滞在した。



ラス・ビハリ・ボース
インド独立運動家。邦彦の友人で、タゴールを紹介した。



井上円了
東洋大学の創立者で、建学の精神を定めた。



今泉定助
国文学者、神道思想家。



根津一
邦彦が進学した東亜同文書院の院長。

邦彦に影響を与えた人



(⇒ ページ)でその時期の大倉邦彦をマンガで読めます。



①8歳前後/横武尋常小学校時代
 (⇒13ページ)



②20代前半/東亜同文書院時代
 (⇒16ページ)



③20代半ば/大倉洋紙商行天津出張所時代(⇒17ページ)



④36歳前後/大倉洋紙店社長
 就任(⇒19ページ)



⑤44歳/1926年の世界一周
 視察中(⇒26ページ)



⑥48歳/1930年の鎮礎式
 (⇒30ページ)



⑦55歳/1937年の東洋大学
 学長就任(⇒34ページ)



⑧70代/講演中の邦彦
 (⇒40ページ)





⑨88歳/1970年の米寿
 (⇒41ページ)



履 歴 書

2021年 7 月 25日 現在

ふりがな 氏 名	おお くら くに ひこ 大倉 邦彦		 *武者小路実篤 画
生年月日	1882年(明治15) 4月 9日生 (牡羊座)		
ふりがな 出身地	さがけん かんざきぐんさいごうむらおおあざあねがわ げん:かんざきしかんざきちょう 佐賀県神埼郡西郷村大字姉川 (現:神崎市神埼町)		
身長	160cm (5尺2寸)		

年	月	年齢	学歴・職歴など(項目別にまとめて記入)
			学歴
1892	3	9	横武尋常小学校尋常科 卒業
1897	3	14	勸興小学校 卒業
1902	3	19	佐賀県立佐賀中学校 卒業
1906	6	24	東亜同文書院商務科 卒業
			職歴
1906	6	24	大倉洋紙商行天津出張所 入社
1918	7	36	大倉洋紙店 社長 (~1940、1951~1961 再任)
1932	4	50	大倉精神文化研究所 所長 (~1945、1952~1971 再任)
1937	7	55	東洋大学 学長 (~1943)
1958	4	76	夕ゴール記念会 理事長 (~1962)
1961	1	78	大倉洋紙店 会長 (~1971)
1971	7	89	7月25日 死去
			現在に至る
			以上



家族構成

6人兄弟の次男、父は江原貞晴、母はエツ、兄は貞一

好きな食べ物

茶粥、芋粥、うどん、そば、鯉せんじ

(故郷の味が大好きです。本物を味わうことにこだわりがあり、料理家・美食家で知られる北大路魯山人の会員制料亭、星丘茶寮の会員でした。)

好きな言葉

三空(さんくう)、宇宙心(うちゅうしん)、実践躬行(じっせんきゅうこう)

徳感人(とくはひとをかんせしむ)、随処作主(ずいしょにしゅとなる)

尊敬する人物

根津一、タゴール、聖徳太子、道元禪師

好きな本

『普勸坐禅儀(ふかんざぜんぎ)』『修証義(しゅしょうぎ)』

『典座教訓(てんぞきょうくん)』『神典(しんてん)』

趣味

読書、坐禅、柔道、書道、墨絵、奉仕活動、

子どもたちと遊ぶこと

信仰

生家(江原家)は浄土宗で、養家(大倉文二家)はキリスト教です。私自身は禅宗(特に曹洞宗)に傾倒していますが、一つの宗教に囚われることなく、神道や儒教、キリスト教などの教えも大切にしています。